

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200198		
法人名	株式会社 ケアフロンティア		
事業所名	グループホーム さんぼ道		
所在地	栃木県足利市山下町2325-2		
自己評価作成日	平成27年2月24日	評価結果市町村受理日	平成27年5月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成27年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さんぼ道に関わるすべての方が「こころ豊かに」「楽しく」「快適」を基本理念に家庭的な雰囲気の中、安心して穏やかに過ごせる環境作りを目指している。  
レクレーションを通じご利用者様同士や職員と笑顔で過ごせるようコミュニケーションを図ると共に行事等を通じご家族様や地域の方々との交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、県境に近い市南西部の自然豊かな環境にあり、閑静な住宅街の一角に位置している。「さんぼ道」という事業所名の由来にもなったとおり、近隣住民が散歩している姿も多く見かけ、散歩時には挨拶を交わすなど、顔見知りの関係が築かれており、日頃から地域との交流が盛んである。理念の『「こころ豊かに」心配事のない穏やかな暮らしを・「楽しく」散歩や買い物、食事会などの外出の機会を持ち、社会との関わりを通じて笑顔で楽しい日々を・空間的な「快適」はもとより、心の「快適」を重視し職員一人ひとりの「気づき」を大切に』を念頭に置き、日々の支援にあたっている。職員は利用者一人ひとりと向き合う時間を大切に、利用者がゆっくりと自分ペースで生活できるよう支援している。また、家族と話す機会を多く設け、利用者や利用者家族に寄り添った柔軟なサービスの提供ができるよう関係・環境づくりに努めている。さらに、避難訓練と運営推進会議を同時に開催し、消防職員との意見交換を行うなど運営に工夫をしているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より「こころ豊かに・楽しく・快適」を基本理念に全職員への周知に努めケアの実践の毎この趣旨を実践し徹底している。	「さんぼ道に関わる全ての方が こころ豊かに・楽しく・快適」との基本理念を職員はよく理解し、日々の支援に努めている。管理者と職員は、日常的に理念に立ち返り、実践につなげている。職員は、この理念について外部で行う研修で紹介するなど自信を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り等の行事に参加、協力している。毎日の散歩を通じ地域の方々と顔なじみになりご近所の方々との関係は良好である。	自治会に加入しており、夏祭りや秋のふれあい祭りなどの地域行事に参加している。音楽会や慰問ボランティアの受入時には、近隣の方も招待し交流に努めている。また、散歩中に挨拶を交わしたりお裾わけをいただくなど、日頃から近隣の方と触れ合う機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ自治会長、民生委員、地域の方々へ認知症や支援の方法を理解していただけるよう発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二カ月に一度開催している。今年度は消防署職員様や警察署の職員様にも参加頂き意見交換をしている。	市職員・民生委員・自治会長・家族代表・利用者代表などが参加し、利用者状況や事業報告を主な議題としている。今年度からは、避難訓練日に同時開催し消防の方と、また、別の日には警察の方を招き、情報・意見交換をするなどの工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当職員と運営に関し情報交換をしているほか制度に関わる指導・助言を得ている、運営推進会議を通じ他事業所の状況等、助言を頂き質の向上に取り組んでいる。	市の担当者とは顔見知りの関係ができており、質問や相談があれば電話や訪問をして、指導・助言を得ている。経営母体では認知症サポーター養成講座講師の派遣・協力も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除理念を玄関に提示し外部研修会に参加し、不適切ケアのチェックやアンケート等、実践的な取り組みをしている。	言葉による拘束を含む身体拘束にあたる行為や言動についての確認シートなどを用い、定期的に職員が振り返り・自己評価する機会を設けている。また、支援中に疑問に思ったことや気づきがあれば、その都度職員間で助言・指導し合っている。日中玄関は施錠せず、徘徊には付き添いや他に興味を変えるなど工夫し、本人が納得できるよう対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員ミーティングや勉強会を通じ虐待防止について再確認すると共に申し送りの徹底など見逃しがないように実践している。		

グループホームさんぽ道

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体的な事例なし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関することはすべて書面での取り交わしとし、ご説明後納得されてから署名頂いている。疑問点や質問などしやすい心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様の様子など毎月ご家族様宛にお手紙を送付している、連絡帳などを利用し意見や要望を聴き反映している。	請求書送付時に手紙を添え、利用者の状況や行事報告を行い、毎月の支払い時には家族と顔を合わせ話す時間を作っている。運営推進会議や面会時など、家族と話す機会を多く取り入れている。出された意見を運営に反映させている。	行事計画の情報やアイデアなどについての問いかけや、意見を引き出しやすい声掛けの工夫など、より多くのご意見をいただけるよう、今後の検討や取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や日々の会話、連絡ノートなどで意見や提案、外部研修会参加希望などを聴き反映している、今年度より自己評価など職員全員で作っている。	毎月の会議では活発に意見・提案があがり、休憩時間や排泄のケア等に関する職員の意見を取り入れ運営に反映させている。管理者と職員は何でも話しやすい関係ができており、日常会話の中でも支援に関する改善点や相談があればその都度話し合い、支援に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状況を把握しており工夫や実績を評価し環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会に積極的に参加している、参加した職員は後日内部研修会の講師としてフィードバックしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連施設である市内5か所のグループホームや多機能施設と連携しオレンジリングや初期救命の講習など質の向上に取り組んでいる。		

グループホームさんぽ道

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前の事前訪問などによりご本人のお話を聴く機会を設け要望や不安などを受け止め予想しスムーズな関係が築けるようつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所または訪問により困っていることや要望などの解消にむけ良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時、管理者が面会を行いどのようなサービスが提供できるか説明し必要に応じて他事業所もご紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常会話などから得意なことや過去に行ってきたことなどを探し教えてもらったりと関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活状況や健康状況などその都度報告し日々の暮らしの中でご家族様の支援が必要な時はともに協力しあい支えていけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と外出を支援し馴染みの方々の面会や電話をなど随時対応し継続的な関係が途切れぬよう配慮している。	自宅畑の野菜収穫や墓参り、買い物など家族との外出のほか、面会時の会話などから情報を吸い上げ、昔馴染みの場所への外出などを支援している。また、仕事帰りの夜間の家族の面会や、配偶者が併設のデイを利用している方は日中は配偶者と過ごせる時間を作るなど、関係継続に配慮した臨機応変な対応をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのご利用者様がができることを分担しあい関わり合いや支え合いができるよう支援している。		

グループホームさんぽ道

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も要望があれば連絡や面会に行き、相談やフォローを心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり合い、会話や過去の仕事や趣味、生活歴のなかから意向や希望の把握に努めている、困難な場合はご家族様に伺い本人の思いに近づけるよう心がけている。	日常の会話や関わりから思いの把握に努めている。困難な場合にも、家族から昔話や本人の趣味・嗜好を伺ったり、日頃の表情などから思いを推し測り寄り添うよう心掛けている。喫煙なども、可能な範囲で馴染みの習慣が継続できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方にあつた生活や時間、思いの過ごし方ができるよう日常会話や個人ファイルを利用し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の興味があるもの、できる事を把握し一人ひとりのペースで過ごせるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員担当制を採用しており、本人・ご家族、担当職員と話し合い現状に即した見直しを行っている。	担当職員を中心に毎月の会議で話し合い、日々の支援に反映させている。その他、担当職員は変化があれば常にケアマネジャーに伝えている。6ヶ月(短期計画)と1年(長期計画)を目安にケアプランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護状況や様子・出来事など個別に24時間、経過記録として記入し情報共有しながら反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	理美容車の手配や主治医の往診、歯科の往診などその時折りの状況で柔軟な対応が出来るよう取り組んでいる。		

グループホームさんぽ道

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長や民生委員様から地域行事を紹介して頂いたり近隣の清風高校より生徒ボランティアの受け入れなど連絡を取り合い協力体制を整えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前より診察を受けているかかりつけ医の継続支援している、必要に応じて看護職員が随時状況を報告し適切な医療が受けられるよう支援している。	利用前からのかかりつけ医の継続受診を支援している。協力医には毎月の往診があり、協力医に移行された方もいる。病院受診時は家族や職員が付き添い状況報告し、個々の体調や状況に合わせた適切な医療が受けられるよう医師との連携を図っている。希望者には訪問歯科の利用も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し適宜情報提供や健康管理の状態変化を伝え支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護職員が中心になり、ご家族様と相談したり医師や病院関係者と面会し協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時にホームの方針を十分説明し家族や本人様、医師とも話合っている、重度化した場合や終末期のあり方については医師の協力を得ながら支援している。	利用開始時に事業所としての方針を説明し、本人や家族の意向の確認をしている。また、本人の状態変化に合わせ、その都度家族の意向を確認している。本人や家族の希望があれば、医師の協力を得ながら看取りにも対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って行っている。また、状況に合わせて看護師が指示し、職員は普通救命講習を受講し内部勉強会等で周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は夜間想定での避難訓練を消防署立ち合いのもと行った訓練には自治会長や民生委員様も参加頂き担当市職員など協力体制を築いている。	年2回、夜間・日中想定で避難訓練を行っている。訓練には自治会長も参加し、避難後の外での見守りを実際に体験・協力してもらった。職員の緊急連絡網、自動火災報知設備・緊急通報装置が完備されている。水、食料の備蓄やガスコンロの用意もある。	訓練に参加してもらうなど地域の協力が得られているので、より具体的な体制づくりとして、今後は自治会長に連絡網に入ってもらうことなども視野に入れた検討・取り組みに期待したい。

グループホームさんぽ道

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は自分の親と同様、ご利用者様に対し敬う気持ちを持ち不適切な言動がないよう注意して言葉掛けや対応をしている。	職員は、利用者に対し常に年長者として敬い、親しみをもちつつも馴れ合いにならない言葉かけや対応を心がけている。失禁時もさりげなくトイレ誘導し目立たないように片付けるなど、プライバシーに配慮したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を伝える雰囲気や場所など考え心がけている職員は出来る限り希望通りになるよう対応し自己決定が困難な場合は選択肢を数個あげ選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの生活のリズムはあるが本人のその日その時の状況や状態にあった生活を過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は好みのものを選んでもらっている、希望に合わせて福祉理容車を利用し希望は細かく伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の嗜好に配慮しながら提供している、敷地内の畑で採れた野菜やご家族様からの野菜の差し入れを使用し一緒に下ごしらえや片づけをしている。	畑で収穫した野菜や家族・近所からの差し入れ食材を取り入れながら、職員が献立作り・買出し・調理をしている。利用者の残存機能を活かし、皮むきや筋取りなど野菜の下ごしらえを手伝ってもらうこともある。お寿司やケーキなどの外食や、お饅頭などの希望をおやつに取り入れ、食事が楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量を記録・確認している、個々の嗜好に合わせた飲み物や料理にて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。義歯利用者は夜間に義歯洗浄を行い、今年度は歯科医師による口腔ケア外部研修に参加しより良いケアを目標にしている。		

グループホームさんぽ道

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用しトイレで自立した排泄ができるよう支援している。	排泄チェック表を用い時間をみて声かけ・誘導し、日中はトイレでの排泄を支援している。拒否のある方にも時間をおいて再度声かけするなど工夫し、自立を支援している。尿量の多い方は、睡眠の妨げにならないよう夜間のみおむつを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に努め、タオル体操などを毎日行い予防をしている、排泄記録をつけ飲食物の工夫も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが本人の希望や体調に配慮し支援している季節に応じて入浴剤やゆづ湯など個々にそった支援をしている。	週2回、午後の時間帯での入浴を基本としているが、入浴回数の増減など、体調や疾患の状況に合わせて調整・対応している。入浴剤の使用など、入浴が楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活に合った対応をしている季節の変化や体調を考慮し施設内や居室の温度や光に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心に内服薬の確認・薬の目的や副薬用、容量・用法については内服薬ファイルを活用し医師の指示通り服薬できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや茶碗拭きパズルや塗り絵毎日の散歩、施設内でのカラオケなど楽しみごとや気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に買い物に行く時など声掛けを行っている。天気の良い日はお散歩やドライブ、ホームの行事として月1回以上は外食や季節のお花見などに外出している。	天候に合わせて日常的に近隣の散歩に出かけている。家族の面会時には家族と外食や買い物に出かけることもある。「お雛さままつり」や「初午祭」などの地域行事や、つつじや梅、桜などの咲く公園への花見、鑲阿寺・織姫神社への初詣など、季節に合わせて外出を楽しめるよう企画・支援している。	



グループホームさんぼ道

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて所持したりホームにて管理している、買い物時はご本人に支払ってもらい見守り支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じて電話や手紙の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに外出時の写真や今後の予定、季節に合った飾り付けなどをしている。	玄関ホールは明るく、季節の飾りや行事予定などが掲示してある。居間は広く、天井には木の梁が映え、木を基調とした落ち着いた色調となっている。小上がりの畳スペースもある。車椅子での移動の妨げにならないよう片付いている。トイレや浴室も広く清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールではご利用者様どうして話をしたり畳スペースで洗濯物をたたんだり、廊下には長椅子もあり思い思いに過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用してきた馴染みのものを持参頂き活用して頂いている。	明るい木目調のベッド、エアコン、カーテン、箆箆が備え付けてある。その他、持ち込みは自由であり、使い慣れた箆箆等の家具、布団、思い入れのある人形や写真等の装飾品など各々馴染みのものを持ち込んでいる。全室掃き出し窓である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所など常に利用する場所は分かりやすく大きく表示し支援が必要なことを見極め個々の能力を生かせるようしている。		